地震ハザードマップ

揺れやすさマップ

高山地域北部

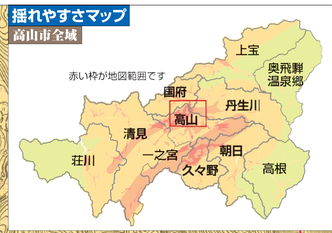
高山市周辺の地震

政府（地震調査研究本部）、岐阜県では、全国、岐阜県下において今後発生する地震の規模が大きいとされる断層帯について、震源断層の位置や形状を調査し、その結果を公表しています。
このうち、高山市において特に大きな被害が予想される断層帯は次の4つです。

❶阿寺断層帯　M7.8程度
❷跡津川断層帯　M7.3程度
❸国府断層帯　M7.2程度
❹高山断層帯　M7.6程度

このマップは、これらの地震の最大値震動を重ね合わせたものです。
（Mはマグニチュード）

揺れやすさマップ
高山市全域



国府地域

丹生川地域

新張上野

揺れやすさマップ　凡例

震度4以下
震度5弱
震度5強
震度6弱
震度6強
震度7

「揺れやすさマップ」の見方

「揺れやすさマップ」とは、高山市域およびその周辺を震源とする地震が発生した場合の地面の揺れの強さを50mメッシュで想定し、「震度階」として色で表現したものです。
揺れの強さは表層地盤によって大きく異なり、軟らかい場所は、硬い場所にくらべ、揺れはより大きくなります。

震度4
かなりの恐怖感があり、飛び下げ物は大きく揺れ、棚などの食器類は音をたて、すわりの悪い置物が倒れる。電線が大きく揺れる。

震度5弱
多くの人が身の安全を図ろうとする。書棚の本が落ちたり、家具が移動し、窓ガラスが割れ落ちることがある。耐震性の低い建物の壁や柱に破損や亀裂が走るものがある。

震度5強
非常な危険を感じ、多くの人が行動に支障を感じる。棚の食器類、書棚の本が落ちることがある。テレビが落下し、タンスなどの家具が倒れることがある。ブロック塀や自動販売機、墓石等が倒れることがある。

震度6弱
立っていることが困難になる。重い家具等が移動、転倒する。かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い木造建物では、倒壊するものもある。

震度6強
這わないと動くことができない。多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い鉄筋コンクリートの建物では、倒壊するものがある。

震度7
自分の意志で行動できない。耐震性の高い建物でも傾いたり破損するものがある。大きな地割れ、地すべり、山崩れ等が発生し、地形が変わることもある。

家族防災会議を開きましょう

いざという時に家族があわてず行動できるよう、家族防災会議を開いて、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。

家族一人ひとりの役割を決める

災害弱者の支援方法を決めておく

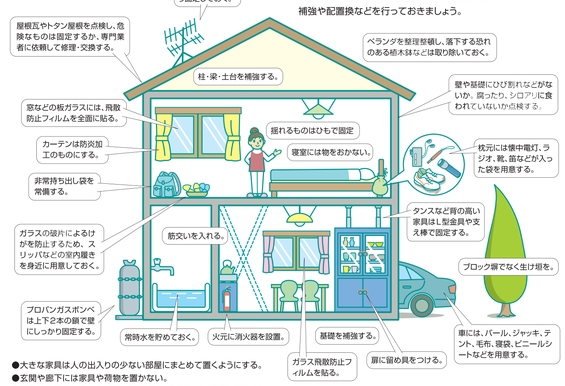
非常持ち出し品の準備とチェック

地震発生時の連絡方法を決めておく

避難場所と避難ルートの確認をする

家の内外の地震対策を進めましょう

地震対策は皆さん一人ひとりあるいは家族が協力して普段から備えておく必要があります。建物やそのまわりにあるもの、家の中の家具やガラスなど、地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換などを行っておきましょう。



●大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
●玄関や廊下には家具や荷物を置かない。
●高齢者や子どもいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。

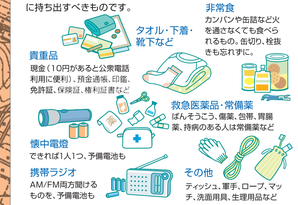
非常持ち出し品を用意しましょう

●被災地に救援物資が届くまでには3日かかるといわれています。持ち出し品はこの3日間に必要なものを厳選しておきましょう。

●家族構成など必要に応じて準備しましょう。乳幼児やお年よりなどで特に必要なものがあればつけ加えておきましょう。
●非常持ち出し品は定期的に点検をし、保存状態や使用期限などをチェックして、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

一次持ち出し品（例）

一次持ち出し品は大地震が発生して避難するとき、まず最初に持ち出すべきものです。



二次持ち出し品（例）

大災害時に、組織的に救援・復旧活動が軌道に乗るまで、最低3日間は自活できるようにしておきましょう。

その他
●赤ちゃんがいる場合
粉ミルクやほ乳びん、離乳食、紙おむつなど
●お年寄りがいる場合
予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど